

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月22日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 事業所番号 | 0872100532 |
| 法人名 | 株式会社 不動産管理センター |
| 事業所名 | グループホーム ひたちなかほのぼの |
| 所在地 (電話番号) | 茨城県ひたちなか市津田東1-9-1 (電話)029-275-6559 |

| | | | |
|-------|---------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 認知症ケア研究所 | | |
| 所在地 | 茨城県取手市井野台4-9-3 D101 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年8月8日 | 評価確定日 | 平成20年1月15日 |

【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 7 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.6人 | |

(2)建物概要

| | | |
|------|--------|-------------|
| 建物形態 | 単独 | 新築 |
| 建物構造 | 鉄骨 造り | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 18,000 円 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ | 135 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4)利用者の概要

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 14 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 7 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 81 歳 | 最低 | 62 歳 | 最高 | 92 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------|
| 協力医療機関名 | 北友会勝田病院・及川クリニック・沼田内科・松本歯科 |
|---------|---------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年に開設されたホームである。身内が認知症になり、苦勞した経験を基に、地域貢献のためにも高齢者の受け入れを目指している。ホームは、住宅地の中に位置しており、周りには、学校、幼稚園、公民館等がある。また、自治会に加入されており、地域活動に、利用者・職員が進んで参加されている。日々の生活の中では、ご近所の方々が立ち寄ってくださり、地域に溶け込んでいる。利用者は多くの方々に見守られ、アットホームな雰囲気の中でゆっくりとした生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 地域に向けての取り組みは、自治会へ加入して積極的に参加している。また、外部評価の結果を踏まえて改善に取り組んでいる。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者が中心となって行った。ミーティングで職員の意見など聞いて作成している。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 推進会議は、定期的開催され、ホームの取り組み、状態の報告などを話し合っている。地区長、民生委員、行政、家族等の意見など聞き、ケアに取り入れる取り組みをしている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 3ヶ月に1回、利用者の生活の様子を送付するようにしている。また、状態に応じて電話などで報告している。苦情に対しては、そのつど職員と話し合い対策を立ててケアしている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域で行われるお祭り、敬老会への参加、近隣のかたのボランティア、小学生のボランティアなど交流が持たれている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 志己利他の気持ちを忘れず、日々の変化を捉えながら今までと変わらない地域での生活を目指している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 1週間に1回のミーティングを取り入れ、理念に基づいて、ケアに取り組むよう努力している。話し合った内容は記録され職員全員の浸透をはかっている。常に地域に向けて出向いていくよう心がけている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に入会して、自治会行事に地域の住民として参加している。敬老会等の紹介状が来るので、公共施設のイベントに参加している。近所の方がボランティアなど声をかけてきてくださっている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価は職員に回覧して確認してもらった。指摘された内容については、話し合い、改善されている。今回は管理者中心に評価をおこなった。 | | 出来る所だけでも職員に記入してもらい、評価の内容の把握や今後のケアにいかしてほしい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員・行政・地区長・後継人など参加して会議を開催している。ホームでの内容、事例などを話し、理解してもらうようにしている。また、意見などもらい、ケアに活かせるようにしている。次回の会議は9月に予定している。 | | |

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|---|
| 6 | 9 | <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | 市の担当者が変わっても、連携は図れている。相談事は常に行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> | 今年から3ヶ月に1度の間隔で行うようにしている。面会に来る方にはそのつど報告し、面会間隔が長い方に対しては、電話等で報告するようにしている。イベントのお便りをだしている。家族とのよい関係が築かれている。 | | |
| 8 | 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 家族からの意見等は、直接話をすることが多い。現実を話して理解していただくように努力している。また、家族に相談しながら、行動をおこすようにしている。 | | |
| 9 | 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 離職は家庭の事情が多い。別れを口にしないようしている。利用者にダメージが少ないように配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | 休みを利用して自主的に行ってもらおうよう話している。研修のお知らせなど回覧している。研修修了者はミーティングで報告したり、資料を回覧して、職員の共有をはかるように心がけている。 | | |
| 11 | 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | 市からの声掛けでグループホーム同士の会議に出席している。ケアマネージャが中心となり同業者との情報交換をしている。また、地域包括センターとの連絡を取り合っている。 | | 他のグループホームとの交流を図り、職員がサービスの質の向上に努めていける環境を整えていけたらよいと思われる。お互いに学んで質の向上をはかれることを期待したい。 |

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|------|--|
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 体験入所は1週間以内である。見学はいつでも出来るようになっている。体験をしていただき、本人の希望を尊重している。他のサービスを体験された方が入所されている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活のなかで昔ながらの知恵を教えもらいながら生活に活かしている。職員は昔の話を聞き、次の話題作りのきっかけとしている。利用者が職員の感情を理解してくれ、励ましてくれることがある。 | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望を聞いて出来る限り行っている。困難なときは、後見人に相談し、意向に沿えるよう話し合いをしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 個別的な介護計画が立てられている。また、家族等の意見が反映されている。アセスメントシートやバックグラウンドシートを活用している。介護計画は家族に郵送したり、面会時に渡したりして、伝えている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | カンファレンスを開き、計画評価表を活用し、見直しを行っている。新たな問題が起きたときには、そのつど話し合い計画作成している。 | | 介護計画は立案されているが、その計画が個人記録に記入されるように期待したい。 |

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 同法人の小規模多機能との連携をはかりながら利用者が安全に、希望に合わせた対応をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的に月1回の往診がある。症状などで気になることなどあれば、電話で相談している。24時間対応してくれ、適切なアドバイスをいただける。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族の意向を聞き、ホームとしては受け入れていく意向がある。今後、職員と話し合っ、ガイドラインを作成していく予定である。 | ○ | 終末期に向けた段階に応じたケア内容の検討、職員との話し合いを進めていく方針に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーについては、職員一同、言葉かけや対応に気を配っている。広報誌に参加していただいているボランティアの方には、口頭で了承していただいている。 | ○ | 個人情報保護法について確認され、文章化し、家族もボランティアの方も安心していただけるような配慮が必要と考える。今後プライバシーの確保の徹底に期待する。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人らしい希望を、無理せず、ペースに合わせて、日々の暮らしを大切にしている。その人にとって、重要なケアの提供を考えて、職員が支援している。 | | |

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 手伝える人が出来る範囲内で、食事を作ったりしている。食事風景は、みな楽しそうに、食事の味など感想を話したりと和やかである。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望を聞いて、午後から入浴している。入浴を拒否する方に対しては、声掛けを工夫しながら支援している。 | | 出来る範囲で、本人の希望に沿った入浴介助支援ができるよう、さらなる支援に期待したい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 季節に応じて、今まで家で行ってきた習慣を取り入れた支援を行っている。出来ることを見つけながら、一人ひとりに合わせた役割を行ってもらっている。また、作った梅ジュースなど味わっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 出来る限り、いろいろな所へでかけるように心がけている。職員は進んで、戸外へ出かけられるよう考えて、支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 安全性を考えて鍵をかけるときもあるが希望に応じた対応をしている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 3ヶ月に1回の自主的訓練、年2回は消防からの指導を受けている。いろいろな場面を想定しながら、利用者の参加の下に訓練している。非常食については、現在はないが、今後、飲料水について考えていく。 | | 今後、ホームでの方針を話し合い、地震等の防災についての意識を高めていけることを期待したい。 |

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食材の提供は、経営者から提供され、献立は決められている。カロリー計算されており、栄養バランスに気を付けている。職員に調理師が働いているので、工夫している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの中の飾りつけは、自分の家のように意識を高められるような工夫をしている。庭には、家庭菜園があり、季節に応じた野菜などを作ったりしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族や利用者の希望を取り入れ、好みの生活スタイルに合わせるようにしている。写真など持ち込まれて、居心地のよさを配慮している。 | | |